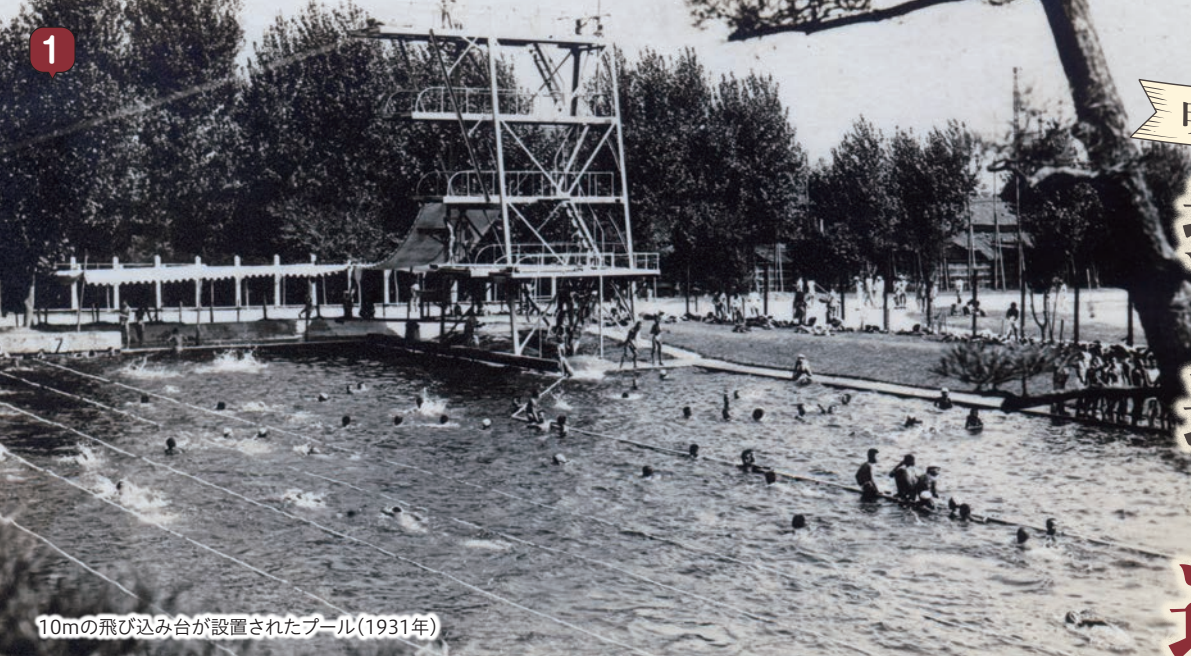


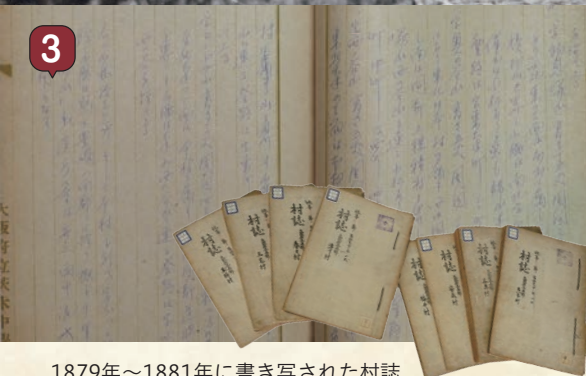
明治から令和へ

茨高の歴史から

振り返る近代教育



10mの飛び込み台が設置されたプール(1931年)



1879年～1881年に書き写された村誌



明治～大正期、学校に保存されていた標本群

今年、創立130年を迎えた府立茨木高等学校(旧制茨木中学校)。日本人初のノーベル文学賞を受賞した川端康成も学んだ同校に大切に保管されてきた学校資料が8月、「市指定有形文化財」に新たに指定されました。

先進的な手法で教育を実践してきた茨高の歩みを振り返ってみましょう。

問合先 文化財資料館 ☎072・634・3433



1 日本初の学校プール 「水泳王国茨中」築かれる

初代校長、加藤逢吉の発案により体育教諭杉本傳の指導のもと、日本で最初の学校プールを生徒たちの手でつくり上げました。その後、杉本教諭の指導を受けた水泳部員が活躍。オリンピックに出場する卒業生もあらわれ、ここに「水泳王国茨中」が築かれました。



プールの手掘り作業の様子(1915年)



2 まるで動物園!? 動物標本を使った授業

博物・地理の小笠原利孝教諭は、さまざまな動物のはく製標本などを収集し、実物を見せながらの授業を行いました。最盛期1万8307点を数えた標本群は、現在約千点になりましたが、今もなお学校に展示されています。

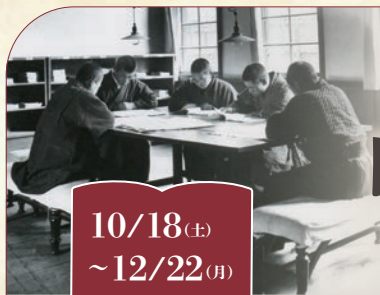


カブトガニの標本(茨木高校所蔵)

茨木高校の歴史

茨木高校の校章は「四」をデザイン化したもので、通称パイマークと呼ばれています。府内で四番目に開校した中学校であり「第四中学校」という名称だったことに由来しています。

- 1895年(明治28年)** 大阪府第四尋常中学校として創立(総持寺の仮校舎)
- 1897年(明治30年)** 現在の場所(新庄町)に移転
- 1899年(明治32年)** 大阪府第四中学校と改称
- 1901年(明治34年)** 4月に大阪府茨木中学校と改称し、6月に大阪府立茨木中学校と改称
- 1948年(昭和23年)** 学制改革により4月に大阪府立茨木高等学校と改称、9月に大阪府立三島野高等学校と改称
- 1955年(昭和30年)** 4月に大阪府立茨木高等学校と改称



文化財資料館 第41回テーマ展

初代校長
加藤達吉

旧制茨木中学校 —近代教育の軌跡—



10/18(土)
~12/22(月)

旧制茨木中学校時代の貴重な資料を展示し、近代の学校制度や当時の生徒・教員の姿を紹介します。

見どころ

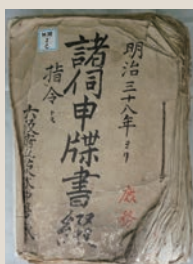
市指定文化財の学校資料を初公開

明治から昭和期に至る旧制茨木中学校時代の教務・会計・授業関係・学校運営・生徒生活などの資料が新たに指定されました。貴重な資料を、ぜひ間近でご覧ください。

文化財資料館 ☎072・634・3433

東奈良三丁目12-18 / 駐車場6台

開館時間: 9:00 ~ 17:00 毎週火曜・祝日の翌日休館(火曜日が祝日、また祝日の翌日が日曜日の場合は開館) / 入館無料



関連イベント

講演会

①「校史史料と向き合って12年~学校史から見た近代史~」

②「旧制茨木中学校と人文学~天坊幸彦・郷土史・修学旅行」

日時: ①11/15(土)、②11/22(土) いずれも14:00 ~ 15:30(13:00開場)

講師: ①吉村 健さん(茨木高校非常勤講師)、②高木博志さん(京都大学名誉教授)

定員: 各当日先着80人

郷土史教室講座

「旧制茨木中学校のアーカイブズ」

日時: 11/1(土) 14:00 ~ 15:30(13:00開場)

講師: 高橋伸拓(本市学芸員) / 定員: 当日先着80人

同時開催!!

川端康成文学館開館40周年記念特別企画展

川端康成・大宅壮一と旧制茨木中学校

川端と大宅の中学時代と生涯にわたる交遊、卒業後の2人と母校との関係について紹介します。関西初公開となる大宅の合同葬で川端が読んだ弔辞の自筆原本などの資料を展示します。

※関連イベントを37ページに掲載

川端康成文学館 ☎072・625・5978

上中条二丁目11-25 / 駐車場25台

開館時間: 9:00 ~ 17:00

会期中、毎週火曜休館 / 入館無料

文化財資料館・

川端康成文学館

スタンプラリーを開催

2つの館をめぐってオリジナルグッズをゲットしよう! (各館先着250人)。文化財資料館では、館内でクイズラリーも実施します。

オリジナル
ピンバッジ
(文化財
資料館)



A5クリア
ファイルと
ポストカード
(川端康成
文学館)



村誌の書き写しがクリシタン 遺物の発見につながった!?

郷土史を研究した天坊幸彦^{てんぼうさちひこ}教諭は、地域の歴史に対する生徒たちの関心を高めるため、村誌※の書き写しを授業に取り入れ、川端康成や藤波大超も書き写しを行いました。後に藤波は

クリシタン遺物を発見し、千提寺や下音羽地区でのクリシタン信仰の判明に寄与しています。村誌の書き写しが地域の歴史に関心をもつことにつながったのかもかもしれません。
※村の歴史や地理などを記録した文書



上野マリヤの墓碑

厳冬期に徹夜で学校から妙見山山頂を歩いて往復する行事は、1924年に行われたパリオリンピックをはじめ欧米各国の体育の状況を見学した杉本 傳教諭が「お金をかけずに何か記念になる事を」と、始めたことがきっかけでした



1925年から現在まで続く「妙見夜行登山」(写真は1935年の様子)